

第8回 香取市子ども・子育て会議
議事録要旨

日時：平成29年2月22日（水）13時30分～
場所：香取市役所 保健センター2階 研修室

1.開会

事務局から委員の欠員、及び人事異動等に伴う新規委員の紹介

2.会長あいさつ

圓藤会長からの現在の状況を含めた内容の挨拶をいただく

3.協議事項

(1) 子ども・子育て支援事業計画進捗状況等の報告について

《事務局からの資料説明》

- ・次世代育成支援行動計画の実績と状況
- ・地域子ども・子育て支援事業（13事業）の実績と状況について

《質疑応答》

(久保木委員)

13事業の病児保育について、病児・病後児保育については大変期待されている事業ではあるが、香取市では、ファミリーサポートセンターを活用しているとあるが、提供会員・依頼会員が個別に調整を行っているのか・また、看護師や保健師などが、様々な疾病に対応しているのか、どのように周知しているのか？

(事務局回答)

利用者が個別に連絡を取っていただき対応し、病児よりも病後児の対応をとっていただいている。提供会員の中には看護師・保健師はいない。また、既存の施設においても病児・病後児の対応をとれる施設等は現在のところない状況であり、今後の課題でもある。

(久保木委員)

病院に付随する形式で、病児・病後児保育を実施している施設があるので、ぜひ香取市でも実施できるよう取り組んでいただきたい。

(圓藤会長)

病児・病後児保育、ファミリーサポートセンター、延長保育事業の考え方について補足説明

(2) 利用定員の確認について

《事務局からの資料説明》

・平成 29 年度における、各幼稚園、各保育所（園）の利用定員等の確認

《質疑応答》なし

4.その他

《事務局からの報告等》

おみがわこども園の進捗状況、及び新施設等の説明

《質疑応答》

(平塚委員)

人口が減少している状況で、受け入れる施設は足りていない状況なのか、増やす必要があるのか。

(事務局)

子どもの人数は減少しているが、保育の需要は下がってはならず、上がっている状況のため今後も適正数計画していく。

少子化といわれている中、保育所を増やすことへの心配について、入所希望の子どもは低年齢化し、家族構成も核家族化、また夫婦共働きなど、子どもを預けなければならぬ家庭環境に変化している実情もふまえて計画していく。

(斎藤委員)

おみがわこども園が完成し、保護者の反応は概ね好意的なのか。逆に、既存入所施設から、おみがわこども園へ移動しなくないという意見等はないか。

(事務局)

幼稚園と保育所利用者、今後入所をされる保護者、及び地域住民に対して説明会を開催した。同一施設内に 1 号、2 号、3 号認定の子どもたちが一緒に生活するメリットなどを説明し大きな反響があった。入所には優先順位を決めて、小見川中央保育所、南保育所、小見川幼稚園に在園・在所、また、その地域の子どもたちが優先としている。保護者からはご理解をいただいている状況となっている。

(圓藤会長)

2 号・3 号認定の料金については問題ないが、1 号認定の料金について、公立と民間との格差について、今後どのように市は考えているのか？

(事務局)

新制度における利用者負担額（保育料）については、国が定める水準を限度として、市町村が定めることとされていることから、市では、現行の利用者負担額（保育料）を

ベースに、幼・保間等のバランスを考慮しながら金額の設定を行った。

ただし、全国的に見ても、新制度に移行した「こども園」の利用者負担額（保育料）に公私間の差を設けている市町村は少ないことから、今後、検討していく必要があると考えている。

（圓藤会長）

1歳児の受け入れについて、4月の当初入所時で定員となり、途中入所希望ができない状態だと聞いているが実情は。

（事務局）

保育所の途中入所については、各施設の定員に基づいた利用状況により受け入れを判断している。面積基準上の問題、また面積上は可能であっても職員の配置状況により入所が困難なケースも実際にはあった。特に1歳児については、育児休業明けによる職場復帰のための利用希望者が大半を占めていた。また、入所が困難なため育児休業の延長手続きをした件数は平成28年度の実績で佐原14件、小見川6件、山田2件、栗源1件、管外1件の24件であった。このような状況は真摯に受けとめ、市としても保育の質と量の拡充を図り、保護者の方が利用しやすい環境整備を引き続き検討したい。

5.閉会

以上